

平成30年度岩手県献血推進協議会 会議録

1 日時

平成30年12月26日（水） 午後1時30分～午後3時00分

2 場所

エスポワールいわて 2階 大ホール

3 出席者

(1) 委員

宮田 剛 会長、松尾 和彦 副会長、鈴木 健二 委員、小原 紀彰 委員
（宇部 眞一 委員代理）、金澤 貴子 委員、中居 賢司 委員
橋本 良隆 委員、宗形 金吉 委員、谷藤 学 委員、鈴木 浩之 委員
梶田 佐知子 委員、西舘 政美 委員、中島 勝志 委員、柴柳 二郎 委員
一戸 俊行 委員、長生 正広 委員、宮川 康一 委員、西山 隆 委員
（小成 淳 委員代理）、小野 周太郎 委員、佐藤 博 委員
（橋場 友司 委員代理）、大槻 英毅 委員（佐々木 辰也 委員代理）
高橋 嘉行 委員（荒木田 光孝 委員代理）
（欠席委員：鈴木 啓二郎 委員、佐々木 和延 委員、本田 敏秋 委員
高橋 昌造 委員、荻原 禮子 委員、高橋 秀幸 委員
松田 恵美子 委員、菅原 情子 委員、佐藤 裕昭 委員）

(2) 事務局

保健福祉部長 八重樫 幸治、健康国保課総括課長 佐々木 哲
薬務担当課長 千葉 和久、主任主査 田村 剛、技師 藤村 哲雄
技師 小田 哲也
岩手県赤十字血液センター事業部長 鈴木 洋一、献血推進課長 菊池 望
推進一係長 乳井 和夫

4 会議の内容

(1) 開会

(2) あいさつ（八重樫保健福祉部長）

(3) 議事

ア 報告

平成30年度献血推進事業等の概要について（資料No.1 藤村技師、菊池献血推進課長が説明）

[質疑・意見]

（宮田会長）医療機関からの血液製剤の需要に対し、献血による供給が追いつかなかったことはあるのか。

（血液センター 菊池課長）月や週でみると、献血による供給が足りないことはあったが、その場合、採血車の臨時配車や東北ブロック内調整によりまかなっている。

イ 協議

- ・平成31年度献血目標について（資料No.2 菊池献血推進課長が説明）
 - ・平成31年度岩手県献血推進計画について（資料No.3 藤村技師が説明）
- 2件とも案のとおり承認された。

[質疑応答]

(梶田委員) お話ししたいことが3点ほどある。まず、1点目、先日、クリスマス献血で盛岡市大通の献血ルームに行ったが、待ち時間が1時間半以上と長く、せっかく来ていた高校生たちも長く待たされていたがどうにかならないものか。次に、2点目、仙台では、街頭において独特の話術で献血の呼び掛けを行うことで有名な人物がいるようだが、そういった人物を岩手に呼び普及啓発の一助としてもよいのではないか。最後に、3点目、献血は個人によっては年に何度も協力し、相当回数の献血協力をされている方もいるため、そういった個人への表彰等を検討されてはいいかがか。

(血液センター 菊池課長) まず、1点目について、献血ルームメルシーにはベッドが14床しかないため、一度に多くの方に来ていただいた際には長い待ち時間が発生してしまう現状となっている。長い待ち時間の解消のため、事前予約も募っているが、効果がいまひとつであるため、今後、その方法等について検討したい。次に、2点目について、その人物は当県花巻市出身の宮城県血液センターの臨時職員であると承知している。献血の普及啓発方法については、これまで、街頭での呼び掛けをはじめ、メール、SNS等での広報を行っているが、今後も様々検討していきたい。最後、3点目について、複数回献血に御協力いただいている方の中にはこれまでに約800回の献血に御協力頂いている方も承知している。血液センターでは、そういった方々に対する御礼等を行ってきた経緯もあるが、表彰についても検討したい。

(橋本委員) 前回の協議会で、若年層対策として、高校の卒業式や成人式の場での献血を実施してみても、という意見があったと記憶しているがどうなったか。また、当協議会の委員に学生ボランティア団体のメンバーを加えてみては、という意見もあったと記憶しているがどうなったか。

(血液センター 菊池課長) 高校からは献血バスの受入れ時期として夏頃の要望が多く、また、成人式の場での献血の実施も困難である状況であったため、若年層対策としては、平成31年度からは献血ルーム及び献血バスで10代、20代について200mL献血も受け入れ、若い方々に少しでも献血を体験してもらおう方針となった。また、高校での献血セミナーは、千厩高校、遠野緑峰高校等で実施し、役所での献血バスの配車時に付近の高校生にも献血の協力を頂いている等しているところである。

(健康国保課 藤村技師) 当協議会への学生ボランティア団体メンバーの加入については、今年2月の改選期にあわせ、当協議会設置要綱の改定事務を行い、協議会委員に「献血に関するボランティア活動を行う者」の項を加え、イーハトーブ学生赤十字奉仕団代表の小野周太郎さんに委員を委嘱させていただき、今回の協議会で御出席いただいている。

(橋本委員) 前回の協議会で出された意見等について、既に御対応いただいていることに感謝申し上げます。今回、新たに学生ボランティア団体で委嘱された小野さんが出席いただいているので、ぜひともコメントをいただきたい。

(小野委員) イーハトーブ学生赤十字奉仕団で代表をしている岩手大学の小野です。当奉仕団は、県

立大学生10人、岩手大学生1人、盛岡大学生1人で構成されており、イベント献血時にココロんちゃんの着ぐるみに入ったり、バルーンアートを行ったり、献血セミナーに携わったりと献血普及啓発活動を行っている。これからよろしくお願いします。

(宮田会長) 唯一の学生の委員となるので、今後、積極的に忌憚のない御意見をお願いしていきたい。

(金澤委員) 県で作成しているクリアファイルはどのように配布しているのか。また、血液センターによる献血セミナーは高校においてどのように行っているのか教えていただきたい。

(健康国保課 藤村技師) クリアファイルは、卒業生である高校3年生を対象に毎年卒業式シーズン前に県内全高校に対し卒業生数分を送付している。

(血液センター 菊池課長) 献血セミナーは、どの高校も忙しく時間の確保が困難であるが、久慈高校では保健所による薬物乱用防止セミナーや禁煙セミナーと併せて実施させていただいたことがある。

(金澤委員) クリアファイルは配布しただけでは実際に活用されているかが分かりにくいいため、献血セミナー時等に併せて説明するとよいのではないかと思う。

(中居委員) 献血前に、まずは健康ありきである。献血ルームでは体のこと、病気のしくみ、血液がなぜ必要かを啓発しており、今後も健康の啓発とともに献血の啓発を行っていきたい。

(橋本委員) 医薬品を服用している場合、献血への影響はどうか。

(中居委員) 私から説明する。糖尿病薬、抗凝固薬、分子標的治療薬、抗腫瘍薬等を服用している方は献血には御協力頂けないが、医薬品によっては献血に御協力頂けるものもある。詳しくは血液センターHPに掲載しているため、御参考いただきたい。